

～七飯町海外交流研修に参加して～

七飯高等学校教員 松山 浩司

(1) はじめに

私は、今年七飯高校に転勤してきたばかりでしたが、その一年目から早速この中高生海外派遣引率教員として研修の機会を与えていただいたことに、まずもって関係機関の方々に深く感謝いたします。私自身、アメリカを訪問するのは30年ぶりになり、さらに東海岸は初めてということもあって大変楽しみでもあり、わくわくする気持ちと緊張感が入り交じった思いで出発の時を迎えました。

(2) 波乱続きのボストン到着編

10月4日朝、晴天の函館空港に集合した訪問団、みんな元気にこれからのアメリカ訪問に向けて、心弾ませていました。もちろん初めての海外旅行となる中学生を始め、高校生の中には、昨年コンコードを訪問したことのある生徒もおり、それぞれが、それぞれの期待を胸に顔を合わせました。

まさか、ボストン到着までが、こんなことになるとは露知らず…。函館空港を出発、無事に羽田に到着後、成田空港までのリムジンバスに乗り換えます。ここで改めて、みんなの荷物の多さにビックリ！色とりどりのスーツケースに加え、ホームステイ先へのお土産で満杯に膨らんだバッグを持つものもいました。



お土産でいっぱい膨れた荷物

成田空港に到着した一行はまず、アメリカン航空のカウンターに並び、予め函館で配られたチケットを使い各自でチェックインを行うのですが、カウンターには基本的にチェックインしてくれる係員がおらず、自動チェックイン機でやることに。ですが、これがなかなか上手くいかず、ここで非常に時間を取られました。First CLASS, Business, Economyと書かれた看板はありましたが、あまり人もいなかったもので、我々「エコノミー」の人たちも「ビジネス」の自動チェックイン機を使わせてもらいながらやっていた所、何時の間にか後ろにはチェックインを待つアメリカ人と思われる人の列でいっぱいに。すると、その中の一人が「Is this Business or Coach?」と不機嫌そうに「君たちはあっちに並べよ。」という感じで話しかけてきて、まずはアメリカ人によるジャブを浴びせられた感じでした。

それでもまだ時間的に出発まではかなりの余裕があり、手荷物検査を済ませたあとは、これからしばらく遠ざかることになるであろう日本食を食べようということで、

生徒たちとともにラーメンなどに舌鼓を打ちながら、昼食を取りました。免税店や両替所も多くあり、時間的にも余裕がありましたので、ここで最後のホームステイ先へのお土産を購入したり、両替する人もいました。

そして、いよいよ日本からの旅立ちです。アメリカン航空の機内は横に広がったのですが、残念ながら我々の席はほとんどの人が、窓側ではなく、通路を挟んで真ん中の席でした。前の椅子にはビデオがついているのですが、故障しているものもあり、また読書灯がつかないものもあるなど、かなり雑な印象でした。

日本時間の夜6時に出発後、約13時間のフライト中に合計2回半の食事が出されましたが、そのうち1回は寝ててスルーされました。

乗り換え地のシカゴには、ほぼ予定通り到着し、その3時間後にボストンに向けて飛び立つ予定でした。一度入国審査を受けて、荷物をボストン行きの便に預け直さなければならぬのですが、入国審査で大問題が発生！大量の人の列が出来ているにも関わらず、入国審査官の数が少なく、待てど暮らせど列が進まない。そうこうしてる内に、時間が刻々と過ぎ、次の便まで1時間もなくなる所までいきました。列を整理する係員に事情を話しても全く受け入れてもらえず、結局全員が入国審査を済ませたのは次のフライト時間から1時間近く過ぎた頃に。

一応、全員で乗り継ぎのカウンターに行き、事情を話しましたが、結局次の便にも全員乗れないとわかり、色々方法を探った挙句、シカゴに宿をとり、翌朝早い便でニューヨークに飛び、そこから、デルタ航空に乗り換えて、ボストンに戻るような形で行くことに。

しかし、ニューヨークからのデルタ航空も全員が一度に乗れないので、3班に分かれて行かねばならないことになってしまいました。

その後、シカゴオヘア空港から近いホテルを確保してもらい、そこに宿泊。食事の場所も限られ、次の朝の出発も早いことから、空港内のマクドナルドで各自でハンバーガーなどを購入することに。ここでは、みんな疲れもありましたが、最初のアメリカの食べものということで、少し興奮しながら注文していました。



アメリカでの初マック

翌朝ホテルのバンで空港まで往復してもらい、全員の荷物を空港で降ろした所、ドライバーから「これだけの荷物を降ろすのを手伝っているのにチップはないのか」と催促され、そこで改めて慣習の違いに気づかされました。

そして第一班の人が、ニューヨーク到着後、乗り換え便の出発まで時間がギリギリということで、第二班、第三班の人たちがその人たちの荷物を預かることになりました。一人二個まで荷物を預けるのが大丈夫だということでそうしたのですが、結局二

ニューヨークに着いてターンテーブルから荷物が出てくるのを待っていてもまったく出てこないの、空港の係に聞いてみたところ、航空会社が替わってデルタ航空になっても、直接次の便まで荷物は運ばれるだろうとのこと。空港でトラブルがあった場合、乗り継ぎ便や荷物の問題など、このあたりの対処がやはり難しいなあ実感させられました。

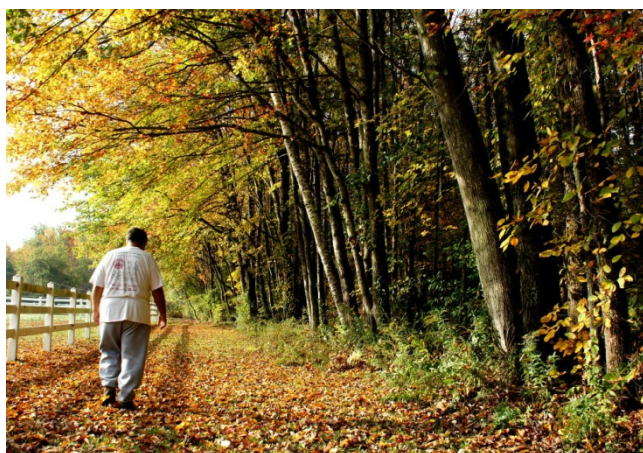
また、ニューヨーク・ラ・ガーディア空港の到着ターミナルから、デルタ航空の飛行機に乗るターミナルまで行くシャトルバスに乗るのにも一苦労。いろいろあります・・・。デルタ航空のカウンターに行き、チェックイン。ここで、第二班と第三班は一便の時間差があって乗る予定だったのですが、急遽空きがあるから同じ便に全員乗れることに。なんだか予定が全く立たない感じであれよあれよとデルタ航空の機内に。そしてようやくボストンに到着することができました。

コンコード・カーライル高校の先生方やコンコード町の関係者の方々の出迎えを受け、ほっとひと安心！と思ったところ、最後の最後に1名分の荷物が出てこない！結局次の日に無事見つかり届いたのですが、もうとにかく到着までの波乱続きの行程にはびっくり仰天させられました。

(3) コンコード滞在編

私がホームステイさせていただいたのは、コンコード・カーライル高校の音楽の先生であるデンティーノ先生のお宅でした。先生の家は、高校からは車でハイウェイを飛ばして約40分かかかるランカスターという町にあるのですが、馬の牧場をやっていることもあり、その敷地が広大で見るとものすべてが、ピクチャレスク(写真的)なお宅でした。

次の日は朝から晴天に恵まれ、ブレックファーストの後、家の周りや牧場周辺を案内していただきました。辺り全体が非常に背の高い木々に覆われており、秋の木の葉が舞い落ちる素敵なシチュエーションの中、まるで映画の世界に入り込んだかのように感じました。写真好きな私はもう夢中でシャッターを切り続けました。



デンティーノ先生のお宅の牧場にて

その後、コンコードでは「オーチャードハウス」の見学、「七飯町・コンコード町姉妹都市提携15周年記念式典参加」、「コンコード・ミュージアム見学」、「コンコード・カーライル高校でのパーティー」など無事予定を消化できました。

中高生の生徒たちが高校で授業等に参加する日の朝、学校は7:30から始まるので、みんな早起きして少し眠そうに高校の図書館に集合しまし

た。1時間目、生徒達が図書館を案内してもらっている間、私は、デンティーノ先生の音楽理論の授業を見せていただきました。電子ボード、パソコン、プロジェクターを駆使して、電子ボードに写る五線譜に音譜を電子ペンで描き入れながら、生徒への質問、答えを繰り返し進める授業は大変魅力的でした。

その後、午前中は、高校に敷設しているCCTVというTV局でTV製作のカメラの使い方を教えてもらったり、ラジオ局で日本に向けて電波を発信し、メッセージを送ったりして過ごしました。ただし、そのやり方の説明を受けて、「さあ、後はご自由にどうぞ」と言われても、いつどのタイミングで始めていいのかも分からず、戸惑いました。要は、DJがいて、「これから日本から来た生徒がメッセージを送ります」とか紹介されてやるのではなく、とにかく自分達で全部自由にやれということのようで、前触れもなく、おずおずと一人一人英語で考えたメッセージを話しました。それで本当に日本で電波がキャッチされるのか不安でしたが、生徒の一人の保護者の方から聞こえたというメールが入り、一安心しました。

また、イタリアなど他の国の留学生も訪れて、お互いに質問しあいながらの交流の機会を持つことになったのですが、事前に準備できていなかったこともあり、生徒たちはなかなか質問を出せずに戸惑い、時間を持て余してしまったのが残念でした。出発前の事前研修などで、趣味や特技、好きな食べ物、学校に関わることなどいろいろ質問できる内容を予め考えさせて、英語で練習させておくべきだなと思いました。

午後からの授業は、それぞれホストステューデントの生徒と同じ授業を受けることになりました。ランチタイムには、みなでカフェテリアに行き、サンドウィッチの昼食をいただきましたが、ホストステューデントの子がそれぞれタイムスケジュールが異なっているため、一緒に食べているものもいれば、そうでない生徒もあり、食べている最中に、あるホストステューデントの子が迎えに来て、もう授業に行くよ！となったり、ある子は随分長くカフェテリアで待たされるなどバラバラになりました。

放課後はスケジュール変更で部活動の見学はなしということになったのが少し心残りでした。

コンコードでの最終日には、七飯町藤城小学校との姉妹校であるオルコット小学校を訪問しました。そこで発表するパフォーマンスは、七飯での事前研修の時に考えていたのですが、最後の練習をしようと高校のオーディトリウムに朝8：00から集まり、みんな目をこすりながらも頑張りました。

オルコット小学校に到着すると、小さくて可愛い全校生徒約700名が体育館に集まりウェルカムソングで歓迎してくれました。その後、私たち一行はひとりひとりが自己紹介、そして練習してきたパフォーマンスの紹介をしました。本番はまずまずの出来だったかなと思います。



藤城小学校からの手紙

その後、生徒達は高校に戻り、ランチをとった後それぞれが授業に参加、放課後は部活動のサイファイクラブとの交流を行い、無事にその日の日程を終了しました。

ところで、このコンコードでのホームステイ中に気になったこととして、ホストステューデントとそのファミリーがほとんど日本語が出来ない家庭に当たった中学生の中には、食事中全く無言で過ごすなど、家庭内での会話の場面がほとんどなかった生徒もいたということでした。正直なところ、中学校2年生には、日本語のないホームステイは本人任せでは少しキツイのではないかと思います。事前の研修で、ホームステイ先での会話の練習を少しやりましたが、実際にホストファミリーに面した時に手に取って話せるようなマニュアル的なものを持たせ、カナをふりながらでもたくさん話す練習をさせるなどの強化が必要ではないかと感じました。

(4) ボストン研修編

コンコード滞在中に、高校のスクールバスに乗せていただき、ボストン研修に赴きました。最初ボストンの港にあるUSSコンスティテューション号博物館に行きましたが、そこには、昔、朝鮮戦争時代に使われた軍艦や、多くの帆船、大砲などが展示されて



湾から見たボストンの建物

いて見所も多かったです。そして、ベンさんに替わる七飯町国際交流員として我々の帰国後から仕事をする事になっているニックさんの取り計らいで、ボストンの港から湾に沿って運行するクルーズ船に乗ることができました。海から見えるボストンの街はとても素敵で建物が非常に印象的でした。船を下りた後は、巨大なショッピングモールの「クインシーマーケット」で食事をとり、その後は世界大学ランキングでも

常に1位を争う世界屈指の大学「ハーバード大学」の見学に回りました。ボストンの全体での研修はここまでで、買い物の時間まで配慮して頂いたためか、じっくりと一つ一つの見学に時間を費やすことができなく、駆け足で見学して歩く感じだったのが少し残念でした。

(5) コンコード出発・ニューヨークへ

コンコード出発の朝、高校の授業が始まる前に発つことになっていたのですが、みんなそれぞれのホストファミリーにとどまらず、お世話になったすべてのコンコード町の方々と握手やハグをしあい、再会を誓ったり、お礼の言葉を述べながら写真を撮っていました。そして別れの時を迎え、みな一様に沈んだ空気の中、バスでニューヨークへ向かいました。

ニューヨークでは、現地ガイドの日本人女性の方が途中からバスに乗り込むことになっており、ちょうどお昼過ぎにニューヨーク市内に到着して落ち合うことができました。そして用意していただいていたサンドウィッチなどの昼食を取った後、まずはニューヨーク市内を一望できるロックフェラーセンターの展望台「トップ・オブ・ザ・ロック」に登りました。9.11後、この



ロックフェラー
センターからの眺望

のような施設への入場時には必ずとっていいほど厳重な手荷物検査とX線による身体検査があるそうです。ガイドさんからは予め、バッグの中のペットボトルやハサミ・ナイフ系の金属類は没収されると聞いていたので、みな割とスムーズに登ることができました。ニューヨークのマンハッタンが360度見渡せ、セントラルパークやまた反対側の遠方には自由の女神像が立つリバティ島も見る事ができる最高の景色でした。次に機会があったときにはぜひ、夜の摩天楼をカメラに収めたいと切に思いました。

その後、ホテルにチェックインをしたのですが、3人部屋に入れるはずのエキストラベッド（ホテルの方は「ローラー・ウェイ」という言い方をしていましたが）がどの部屋もいつまでたっても入らずに、部屋からフロントに電話を入れなければならないかかったり、部屋の作りがやや古かったため生徒たちの中には怖くて他の部屋に泊まりに行ったものもいるなど、ここでもちょこちょこプチ・トラブルが。

夕食に関しては、現地ガイドさんはご一緒できないということで、自分たちだけで旅行会社が指定したホテル近くのレストランまで行かねばならないことになりました。ホテルからそう遠くないところとはいえ、土地勘のない夜のニューヨークはやはり不安でしたが、私が持って行ったiPadのMAP



タイムズ・スクエアにて

を使いながらなんとか目的のレストラン（この日は中華）に辿り着くことができました。

その後は、生徒たちを連れて、「世界の交差点」「ブロードウェイ・ミュージカルの本場」夜のタイムズ・スクウェアを見学に行きました。ネオンライトの煌めく巨大な広告看板が見る者を圧倒しま

す。時間は限られていましたが、新たな異国の世界に身を置くことの不思議な高揚感に包まれながら、ここでも私は夢中にシャッターを切り続けました。

翌日はバスでニューヨーク市内見学となりました。まずは自由の女神像の立つリバティ島まで船で行くのですが、その船乗り場でも手荷物検査やX線による身体検査がありました。生徒の一人がうっかりリュックの中にハサミなどが入ったポーチを部屋から持ってきてしまったとのことでガイドさんに伺ったところ、まず100%没収されるだろうと言われました。それならと入り口付近の隙間に隠して、帰ってきて船から下りたら確認してみようとなったのですが、そのまま消えてしまっていたのは言うまでもありません。自由の女神像見学から陸に戻り、金融街で有名な「ウォール・ストリート」を歩き、ニューヨークの証券マンの気分になったりしました。また、9. 11の標的となったワールドトレードセンター跡地の「グラウンドゼロ」を見学しました。

ニューヨークにはまだまだ見所があり、セントラルパークや世界三大美術館の一つと言われるメトロポリタン美術館、ニューヨーク市立図書館などいろいろじっくり見たいところでしたが、ここも時間の関係で車窓からのみの見学になったのは残念でした。しかし、私にとっては思わぬおまけの場所を見学できるラッキーな機会を得ることもできました。それはバスで車窓見学をしているときにトイレを催した生徒のため、急遽立ち寄ったおもちゃ店がなんと私の大好きな映画「ビッグ」の撮影地だったのです。映画をご覧になった方ならおわかりだと思いますが、主人公のトム・ハンクスが、社長と2人で床に埋め込まれた巨大ピアノ鍵盤で遊ぶシーンがあるのですが、そのビッグ・ピアノに偶然出くわすことができたのです。



映画「ビッグ」の撮影地

さて、最後の夕食も、自分たちだけでホテル近くのレストランへ行くことになったのですが、ここでも支払いに関するトラブルに見舞われてしまいました。食事が終了し、帰ろうとしたところ店のウェイターに呼び止められ、チップを請求されたのです。チップは旅行社の予めの支払いに入っていないのかな？と思いながら、役場の方と相談し、チップの金額を確かめたところ、食事代金の15～20%を支払って欲しいとのこと。仕方なく、チップだけは払いましょうとなり、チップを支払って帰ろうとしたらさらに呼び止められ、今度は食事代金自体もまだ払われてないのだとなったのです。さすがに現地旅行者の緊急連絡先など各方面に問い合わせ、最終的には現地旅行社のカードで支払いをするということで解決したのですが・・・。

(6) 終わりに

こうして、最初から最後まで波乱のあった研修も幕を閉じることになりました。私としては中高生の引率教員という立場上、生徒たちを無事に日本の家族の元に送り届

けなければならないという思いで過ごしていましたので、少し緊張しながらの12日間でしたが、なかなか他では経験できない貴重な体験を送ることができたと思います。飛行機の乗り継ぎトラブルや荷物のことなどは逆にこれからもあり得ることですので、今回の経験を次に行かれる方々に生かすことができるのではと思います。

また、この研修の最大の目的であるコンコードのホームステイについてですが、今後はやはり中高生がもっとホストファミリーと会話ができるような仕組みをつくってあげる必要があると感じました。ホームステイだからこそ理解できる文化の違い、国境を越えた人とのつながりを肌で感じとるためにも、その点は重要だと思しますので、今回の経験を生かし、さまざまな場面で協力していきたいと思います。

最後に、七飯町・七飯町役場の関係者の方々、コンコード・カーライル高校の先生方を始め、コンコード町の関係者の方々、本校七飯高校の先生方など多くの方々に感謝を申し上げたいと思います。有り難うございました。